



北海道新十津川農業高等学校学校便り

不撓不屈

令和7年度 第1号

令和7年

5月17日

新十津川農業高等学校



校長挨拶

本校は、昭和23年（1948年）に開校し、創立77年を迎える農業の専門高校です。校訓「不撓不屈」のもと実学実践教育を進め、広い視野を持った心豊かな農業の担い手や生活の質や健康の改善を図る技術者の育成に努めています。卒業生は2,870名を数え、地元はもちろん全道・全国で活躍しています。

本校の社会的役割（スクールミッション）は、「郷土を愛するとともに、地域産業の持続的な成長を担う職業人に求められる資質・能力を身に付けた生徒の育成」です。全国で唯一の「農業・生活科」を設置する学校で、2年次から農業コース（地域農業の担い手（新規就農含む）育成）と生活コース（地域ヒューマンサービスの担い手育成）から1つのコースを選択し、基礎的・基本的な知識・技能に加え、課題解決型の教育活動を実践しています。また、6つの専門分会活動（水稻・野菜・加工・園芸・食物・農業と環境）を展開し、グローバルな視点を持って地域産業を担うことのできる生徒の育成に努めています。

今、われわれが教授している近代農業は、「革命」というべき大きな変革期を向かえています。一度目の変革期は約120年前のトラクターの誕生と普及、二度目の変革期は約60年前の「緑の革命（品種改良、化学肥料、灌漑）」です。そして今起きている第三次農業革命は「アグリテック」と総称され、その大きな特徴はデータとテクノロジーを有効に利用して、効率化を図るというのですが、期待されていることは、「世界の人口増加に対する食糧供給」と「持続可能な新たなシステム創り」です。AIやロボットを使った効率的な食料増産だけではなく、健康や環境、動物愛護などに配慮したイノベーションが期待され、それを担う人材育成が求められています。

そのようなことから、企業や大学、研究機関とも連携を深め、チーム新農として教職員が一丸となって、生徒のため、地域のため、未来のために、全力で特色ある教育活動を推進してまいります。

今後とも、本校に対するご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

北海道新十津川農業高等学校長 加藤 和則

令和7年度 着任者紹介

4月8日（火）、始業式に先立ち、令和7年度の着任式がありました。

加藤校長先生をはじめ、今年度着任された4名の先生方が紹介されました。



校長

加藤 和則

前任校

真狩高校

至誠一貫



事務長

岡本 雅志

前任校

芦別高校

よろしくお願いします



養護教諭

江川 恵

前任校

札幌西陵高校

精一杯頑張ります



実習助手

石尾 章浩

新採用

頑張ります

入学式 32名の新入生を迎えました

4月9日（水）令和7年度の入学式が行われました。32名の新入生が新十津川農業高校生としての第一歩を踏み出しました。新十津川町長谷口さま、PTA会長浮田さまから御祝辞をいただき、新入生を代表し、中澤くんが宣誓を行いました。



プロジェクト計画発表会

5月2日（金）5・6時間目に、今年度のプロジェクト計画発表会が行われました。

「水稲」、「園芸」、「加工」、「野菜」、「生活」、「農業と環境」の各分会活動の代表者が、昨年度の実績と反省点を発表し、今年度の新たな取り組みや改善点について発表しました。

今年度の取り組みの内容については、来年1月におこなわれる校内実績発表会で報告されます。



春のガーデニングフェア

5月9日（金）午前中の時間帯に本校グラウンドで、春のガーデニングフェアを開催しました。

2・3年生の生徒を中心に丹精込めて育てた苗

や、実習で製造した焼き菓子などを販売しました。あいにく曇天で肌寒い日でしたが、たいへん多くの方にご来場いただき、大盛況で終えることができました。

